

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立静岡視覚特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部(分室)

1. 使用状況

寄贈物品名	トランポリン
使用学年及び人数	幼稚部3名、小学部10名、中学部3名、高等部4名
使用頻度	休み時間、体育等でほぼ毎日
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部や小学部の重複クラスや低学年は、教員の付き添いのもと一緒にトランポリンに乗り、優しい揺れを体験している。横になった状態での使用が多いが、揺れを楽しみもっと動かしてほしいことを伝える児童もいる。 ・立って跳んだり跳ねたりして遊ぶ児童生徒も多く、安全に気を付けながら、友達と一緒にピョンピョン跳ぶ様子などが見られる。 ・まだ、新品のため、飛んだり跳ねたりするときには、今までのより、多少力がある。だんだんと使っていくうちにちょうど良い力加減で飛ぶことができると思う。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に設置してあるため、天候に左右されることなく使用ができる。 ・数分の活動でも、自分から飛んだり跳ねたりすることができるため、限られた空間での運動量として確保できている。5分間真剣に飛び、汗びっしょりになった児童もいる。 ・自分から動くとすぐに揺れが感じられ、子どもたちにとっては魅力ある運動用具である。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・使っていくことで、マットなどがもっと使用しやすい形状となっていくと思う。 ・体育の授業での準備運動に入れたりしながら活用頻度を高めていきたい。
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子



自分で飛ぶことが難しい子は、教師が飛ぶことで揺れたり弾んだりする感



大きな_trampolineなので、友達とも乗れます。密にならないように注意しながら友達と一緒に遊ぶことも楽しんでい

柵がないので教師の付き添いは必要ですが、自分で飛んだり、教師と手をつないで飛んだりして楽しんでます。

